

公衆衛生学実習

【単位数：0.5単位，授業15コマ】

1 科目責任者

菱田朝陽 教授(公衆衛生学)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-1-b, V-1-b, V-2-b, V-3-b)

- ① コンピテンスである「医学知識と科学的探究心」を修得するために、疾患の集団発生があった場合、地域医療に関係する各機関と協力して、病因と広がり方を特定し、対策を立てる手順を説明することで地域社会への貢献ができる。
- ② グループ内でのコミュニケーションを取って、討論しながら協力して課題を解決することができる。
- ③ 基本的な疫学指標を計算できる。

(2) 学修目標

- ① 地域社会における疾病予防，健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。
- ② 地域医療に関係する機関を挙げて，それぞれの役割を説明できる。
- ③ 課題に応じた疫学研究をデザインすることができる。
- ④ 疫学研究において，データの信頼性やバイアスを考慮することができる。
- ⑤ 疫学の基本的な指標の計算ができる。
- ⑥ 疫学研究で得られた結果を科学的に解釈し，応用することができる。
- ⑦ グループ内で自分の意見を他のメンバーが分かるように説明できる。
- ⑧ グループ内の他のメンバーの意見を聞き，質問をすることで理解することができる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
参加状況	○	40%	討論や分析への参加の状況
その他	○	40%	各グループの発表内容を評価する。
レポート	○	20%	実習中に適宜，個人又はグループにレポートを課す。

出席：実習を修得するためには，欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

評価基準に達しなかった場合は，レポートの再提出を求める。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

各グループの発表に対して，授業の中でフィードバックを行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
アウトブレイクの危機管理	阿彦忠之	医学書院	感染症の集団発生対応が実習の参考となるため。

6 準備学習（予習・復習）

グループ討論1-5については、公衆衛生学の授業内容（疫学・公衆衛生学）をよく復習しておくこと（1-5で3時間）。

分析1-4については、疫学の部分を復習しておくこと（1-4で2時間）。

グループでのまとめと発表準備1-3については、PowerPoint の操作を復習しておくこと（1-3で1時間）。

終了後、できなかったところ、推論を誤ったところや、足りなかったところについて振り返って復習すること（全体で2時間）。

7 授業計画

（1） 実習の方法

オリエンテーションは講義形式で行い、他はセミナー室かマルチメディア教室での討論・作業となる。発表会では、各グループが発表した内容について討論する。

（2） 実習の内容

疾患の集団発生に対して、どのようにデータを集めて分析して対応するかを紙上シミュレーションで体得する。グループに分かれて作業を行い、グループで発表する。分析には、疫学や統計学の授業で習ったことを使用する。

疫学指標の計算に関するレポートを前半に、最終日に実習のシナリオで疑問に思った点と実習の感想に関するレポートを提出してもらう。